

このたび大谷大学博物館では、冬季企画展として京都を学ぶ「京の寺内町」展の開催を企画いたしました。

近世の京都は、戦国の動乱から再生し、発展・成熟を遂げていきます。その姿は「洛中洛外図屏風」に描かれ、街区や街路の詳細が、数多くの古地図にあらわされるようになります。こうした時代、東本願寺は、慶長七（一六〇二）年に徳川家康より京都東六条に寺地の寄進を得て、寺内町（古屋敷）の形成が進められます。その後、寛永十八（一六四一）年には、三代将軍家光から境内地東側に新たに寺地（新屋敷）を増設され、東寺内町として拡大しました。

その範囲は、およそ東西が新町通から御土居まで、南北が五条通南側から七条通南側に至り、古屋敷は三十町、新屋敷には二十九町を数える町家が軒を並べるようになります。東本願寺をはじめ、関連する宗教施設や本山家臣の屋敷とともに、様々な商・工業を営む家々と人びとの暮らしがあり、「東寺内」という独特の空間を構成していました。

本展覧会では、「近世京都の姿」「東寺内の諸相」の二つのテーマをもうけ、京都の発展の様子とともに、東本願寺と寺内町について、そこに暮らす人びとを取り上げて紹介いたします。この地に展開した人々の営みの一端を感じていただければ幸いです。



境内町絵図
真宗大谷派（東本願寺）蔵

2010年度冬季企画展 京都を学ぶ

京の寺内町

Kyo no Jinaimachi

洛中洛外図屏風(部分)
本館蔵



展覧会予告

次回の春季企画展は二〇一二年四月一日(金)から開館します。

内容詳細は大学ホームページでご確認ください。

京都市教育委員会
京都市内博物館施設連絡協議会 主催

「第十六回京都ミュージアムロード」に参加
※二〇一一年一月二十九日(土)～二月十九日(土)のみ